

令和7年2月12日

浜田市議会議長 様

議員名 肥 後 孝 俊

研 修 受 講 報 告 書

下記のとおり研修を受講したので報告します。

記

1. 研修名

サーキュラーエコノミー。チャンスは地方にある。
サーキュラーエコノミーによる地方創生シンポジウム in 広島

2. 受講の目的（市政との関連など）

サーキュラーエコノミー(資源の効率的な利用と再利用を図り、廃棄物を最小限にする経済システム)への移行と成長志向型の資源自立経済を実現する手法を各界の先行者の事例をもとに学び、本市に取り入れられる仕組みを模索する。

3. 期間（移動日を含む）

令和7年2月3日（月）

4. 経費 5, 4 4 0 円

（経費内訳 浜田駅⇄広島 往復高速バス代5, 4 4 0 円 ）

5. 研修のポイント・議員活動や市政への反映など

本市において循環型経済を構築していくにあたり、広島県における先進的な産官学の連携による取り組みを学び、福祉環境委員会での取り組みテーマの一つである、中山間地域のエネルギーシフトにつなげていくことで、より持続可能なまちづくりができるものとする。

6. 研修内容

（詳細は別紙のとおり）



広島県におけるサーキュラーエコノミー推進の 取組に関するレポート

はじめに

本レポートでは、広島県におけるサーキュラーエコノミー推進の取組に関する議論を踏まえ、浜田市の市政にどのように活かすことができるかについて考察します。会議では、広島県の地理的・産業的特徴を背景とした海洋プラスチックごみ対策とカーボンリサイクルという二つの主要な軸での取組みが紹介されました。

広島県の取組みの特徴

広島県は、瀬戸内海に面し、中国山地の豊かな自然と都市部が共存する地域であり、多様な産業が発展しています。この地理的・産業的特徴を活かし、海洋プラスチックごみ対策とカーボンリサイクルを二つの柱として、サーキュラーエコノミーを推進しています。

地方自治体におけるサーキュラーエコノミーの推進

1. 海洋プラスチックごみ対策

浜田市も、河川や海に面している地域です、海洋プラスチックごみ対策は重要な課題です。広島県の取組みを参考に、以下の施策が考えられます。

- **地域版グリーン C 瀬戸内広島プラットフォームの設立と同様の組織** 地元の企業、団体、住民と連携し、地域におけるプラスチックごみ問題解決に向けたプラットフォームを設立します。
- **生活由来のプラスチックごみ削減** 分別収集の徹底、リサイクル施設の整備、食品ロス削減など、生活由来のプラスチックごみ削減を推進します。
- **海洋生分解性プラスチックの導入支援** 海洋生分解性プラスチック製品の開発・導入を支援し、プラスチックごみ問題における解決方法の一つを提示します。

2. カーボンリサイクルの推進

カーボンリサイクルは、地球温暖化対策として重要な取組みであり、地方自治体も積極的に推進する必要があります。

- **地域版カーボンサーキュレーター推進構想の策定** 地域の実情に合わせたカーボンリサイクル推進構想を策定し、具体的な目標と施策を定めます。
- **技術開発支援** 地元の企業や研究機関と連携し、カーボンリサイクル技術の開発・実証を支援します。

- **産学連携の促進** 産学連携を促進し、カーボンリサイクル技術の社会実装を加速化します。

3. 地域住民の当事者意識の向上

サーキュラーエコノミーを推進するためには、地域住民の理解と協力が不可欠です。

- **環境教育の推進** 学校や地域で環境教育を実施し、サーキュラーエコノミーの重要性を伝えます。
- **市民活動の支援** 環境保護団体や NPO の活動を支援し、市民参加を促進します。
- **情報公開の強化** サーキュラーエコノミーに関する情報を積極的に公開し、市民の関心を高めます。

4. 消費者意識の変革

サーキュラーエコノミーを実現するためには、消費者の意識改革も重要です。

- **環境に配慮した製品の推奨** 環境ラベル表示の推進や、環境に優しい製品の優先的な利用を促します。
- **持続可能な消費の啓発** 長く使える製品の選択や、修理・リサイクルの推奨など、持続可能な消費行動を啓発します。

結論

広島県の取り組みは、地理的・産業的特徴を活かし、地域住民の当事者意識を高めながら、消費者意識の変革にもつなげている点が評価できます。[あなたの市町村名]においても、広島県の事例を参考に、地域の実情に合わせたサーキュラーエコノミーの取り組みを推進することで、環境負荷の低減、経済活性化、市民生活の質の向上に貢献できると考えます。今後、浜田市におけるサーキュラーエコノミー推進の一助となるよう提案していきます。